

目 次

2018年秋季研究大会 シンポジウム報告 テーマ：68年と現代フランス思想

.....	上野 修	1
〈68年5月〉、哲学を解放する	市田 良彦	3
集団、主体性、共同体をめぐる——68年5月とサルトル、ドゥルーズ＝ガタリ、ブランショ	澤田 直	14
大学言説と「反哲学」——68年以後のラカンと哲学の行方	上尾 真道	27

日仏哲学会 2019 春季研究大会シンポジウム報告「現場から考える哲学 石巻、知的障害、子ども の貧困とフランス思想」

.....	村上 靖彦	38
-------	-------	----

障害者旧療護施設の入所体験から施設と地域移行を考える	河合 翔	39
----------------------------------	------	----

2018年秋季大会発表要旨

レヴィナス『全体性と無限』における自由の時間性	小野 和	53
哲学は政治と相渉るだろうか	安藤 歴	54
「感情」を「事実の糸」として辿るベルクソン ——『意識に直接与えられたものに関する試論』第一章読解を中心に——」	磯島 浩貴	55
ジャック・デリダにおける根源的な性的差異と可死性——『生死』講義を起点として	吉松 覚	56
フロイトと共なるデリダ——反復強迫と脱構築の運命——	工藤 顕太	57
「イメージ」を跡付ける	天野恵美理	58
『省察』におけるマテーシスと想像力	武田 裕紀	59
「個性の溶解」から「個性化された存在の消滅の受諾」へ——シモン・ドンの病理的側面	堀江 郁智	60
真であるとはいかなることか ——「第四省察」における真理と完全性——.....	有賀 雄大	61

2019年春季大会発表要旨

ジャン＝リュック・ナンシーの共同体論について	安藤 歴	62
タルドにおけるクールノーの受容について	笠木 丈	63
利益・権利・徳——トクヴィルの「正しく理解された利益」論	宮代 康文	64
エロスの両義性 ——レヴィナスとボーヴォワール——	古怒田望人	65
ジル・ドゥルーズ『襞』におけるライブニッツの再解釈について ——微分法をめぐる——	佐原浩一郎	66

リクール『時間と物語』における「歴史」の指示理論……………	山野 弘樹	67
スピノザ『エチカ』における人間精神の基礎的構造 —「表象 [imaginatio]」の理論を中心に— ……………	秋保 亘	68
ドゥルーズのカフカ解釈の変遷とその意義 —法にまつわる分析を中心に ……	西川 耕平	69
“管理”の要件としての道徳 —ドルバックの自然道徳、あるいは、エトクラシー ……………	沢崎 壮宏	70
Décrire le mouvement de danse : une interprétation de la philosophie biranienne ……	Mika IMONO	71
脱固有化する反復と外部なきエコノミー ——初期デリダにおけるフロイト論と事後性の概念をめぐって—— ……	福井 有人	72
精神にとって身体論はいかなる意義をもちうるか ——デカルトとスピノザにおける人間身体の通時的同一性について ……	立花 達也	73
公募論文		
真であるとはいかなることか —「第四省察」における真理と完全性—— ……	有賀 雄大	74
Entre l'individu et la société: l'anthropologie d'Auguste Comte ……	Takafumi ISHIWATARI	86
奇形の哲学 —バシュラールとカンギレムにおける「誤謬」概念 ……	上野 隆弘	96
デリダ『幾何学の起源』『序説』における「文学的対象の理念性」の在処 ……	小川 歩人	107
スピノザにおける想像 —想像的对象に対するアクチュアリストの位置づけ ……	木島 泰三	119
シモーヌ・ヴェイユとフランス反省哲学 ——「ラニョーとアランの知覚の分析」に回帰するヴェイユ—— ……	小林 敬	131
メルロ＝ポンティにおける「前人格的実存」概念の深化：カーディナー解釈を手がかりに ……………	酒井麻依子	143
ベルクソン『二源泉』第3章における神秘主義と神経症 ……	田村 康貴	155
二つの「自己原因」—サルトルにおける神の問題 ……	根木 昭英	167
La Critique de la physique laplacienne par Auguste Comte : Le cas de capillarité ……	Masahito HIRAI	179
出来事は必ずや実現される 『意味の論理学』における contre-effectuation 概念再考 ……………	平田 公威	191
智恵の探究と堅固な決意 「暫定道徳」における「三つあるいは四つの格率」をめぐって ……………	三上 航志	203
リクール『生きた隠喩』における「物語」の論理 ……	山野 弘樹	215
特別講演		
68年5月と思想：大きな分離 ……	フランソワ・キュセ（訳：黒木 秀房）	227

書評

荒谷大輔著『ラカンの哲学—哲学の实践としての精神分析』……………	工藤 顕太	240
鑄物美佳著『運動する身体の哲学 メーヌ・ド・ピランと西田幾多郎』……………	山内 翔太	245
上野修ほか著『主体の論理・概念の倫理 ——二〇世紀フランスのエピステモロジーとスピノザ主義』……………	大橋完太郎	250
小倉 拓也著『カオスに抗する闘い ドゥルーズ・精神分析・現象学』……………	小林 卓也	255
香川知晶・斎藤光・小松美彦・島蘭進・安藤泰至・轟孝夫・大庭健・山極寿一著 『〈いのち〉はいかに語りうるか? ——生命科学・生命倫理における人文知の意義——』 ……………	米田 翼	259
河野哲也著『じぶんで考え じぶんで話せる こどもを育てる哲学レッスン』…	奥堀亜紀子	264
坂本尚志著『バカロレア幸福論 ——フランスの高校生に学ぶ哲学的思考のレッスン』 ……………	津崎 良典	268
篠原雅武著『人新世の哲学 思弁的実在論以後の「人間の条件」』……………	森 元斎	273
津崎良典著『デカルトの憂鬱』……………	望月 太郎	277
中敬夫著『《自然の現象学》第五編 他性と場所 I』……………	吉永 和加	281
中田光雄著『意味と脱-意味——ソシュール、現代哲学、そして……』……………	小林 徹	286
檜垣立哉著『食べることの哲学』の概念配置について……………	松永 澄夫	291
平井靖史・藤田尚志・我孫子信編『ベルクソン『物質と記憶』を再起動する』…	山口 裕之	296
藤高和輝著『ジュディス・パトラー 生と哲学を賭けた闘い』……………	山森 裕毅	300
松葉祥一／本郷均／廣瀬浩司 編『メルロ＝ポンティ読本』……………	田村 正資	305
松本卓也著『享楽社会論：現代ラカン派の展開』……………	原 和之	309
村上靖彦著『在宅無限大 訪問看護師がみた生と死』……………	渡名喜庸哲	314

会員の声

世界哲学会議について……………	中富 清和	319
-----------------	-------	-----

その他

日仏哲学会 2018 年度 (2018 年 4 月-2019 年 3 月) 活動報告……………		321
日仏哲学会入会手続きについて……………		325
2020 年春季・秋季大会一般研究発表応募要領……………		325
『フランス哲学・思想研究』公募論文応募規定……………		326
「会員の声」投稿規程……………		326
日仏哲学会若手研究奨励賞規定……………		327
日仏哲学会会則……………		327
編集後記……………		329
Sommaire……………		